

たてわり班活動について



今年度から、たてわり班活動の仕組みが変わりました。昨年度までは、例えば「1年生と6年生のグループ」のように、きょうだい学年でグループを形成していたのですが、今年度は、どのグループにも1年生から6年生まで、すべての学年の児童が交じり合う形に変えました。ねらいは、たてわり班活動の目的である、異学年交流をさらに進めることにあります。これまでのきょうだい学年での班構成も、相互の関係が深まり、よかったのですが、様々な学年が交じり合うことで、本校が大事にしている「自分も大事 友達も大事 認め合い」の実現につながる場面を、さらに増やしていこうという考えによる変更です。

上の写真は、はじめての顔合わせ(左)と、第1回目の時のそうじの様子(右)です。これまでも、きょうだい学年でのたてわり班活動を行ってきたからでしょうか、グループ構成が変わりましたが、どの班も比較的スムーズにスタートが切れたように見えました。

校内における異学年交流の効果は、いろいろあると思っています。例えば一つは、人間関係の広がりです。同じ学年の知り合いだけでなく、上の学年や下の学年に知った顔がいることは、小さなことかもしれませんが、児童にとってはプラスです。すれちがいざまに「やあ！」などと笑顔で声をかけあっている姿はよく見かけます。

また、上の学年の児童には、「兄や姉になった気分」をもたせるような効果もあるようです。「大丈夫?」「困ったら声をかけてね」と話しかける姿が見られます。下の学年の児童にとっては、「頼りになる兄や姉がいる」といったところでしょうか。

よく知っている同学年の友達ではない、別の学年の友達との関わりがあることで、「自分も大事 友達も大事 認め合い」の具体化の一助となるといいなという思いで、この設定にしています。もちろん、すべてが絵にかいたような素敵な関わりが展開するだけではなく、ちょっとしたもめごとは発生することと思います。そこを子どもたちが乗り越えて行けるよう、私たち教師は、丁寧に見守りつつ、適切な介入も行ってまいりたいと考えています。